

残雪季最終日の尾瀬至仏山

2008. 5. 9 (金) ~ 11 (日)

L. 山田 稲葉 灰谷 吉住 寺田

5月10日に至仏山、11日に子持山へ登る計画で9日夜19時に鶴見で稲葉さん、寺田さん、19時30分に穴守稲荷のJALシティ羽田で吉住さんと待ち合わせをし、一路尾瀬に向けて出発した。当初は鳩待峠でテ泊の予定でしたが天候が優れない予報だったので、道の駅白沢で仮眠することになった。都内の渋滞も無く、22時前には白沢に到着し、早速車内で入山？祝いが始まり、話に、酒に、盛り上がってしまい気付けば12時を回ってしまっていた。2名が車中に3名が個室になっている東屋にて仮眠をした。

4時に起きた時は小雨がぱらついていた。朝食を摂り山行準備を整えて、5時に出発した。6時に鳩待峠に着いたときは、みぞれに変わっていたが、あまり寒さを感じなかった。11日より自然植物保護の為入山禁止になってしまうので、混雑するかと思っていたが、天候のせいから、6台の車が停まっているだけであった。

6時20分、至仏山頂に向けて出発した。だらだらした樹林帯の中をゆっくり登り一本目の休憩の頃にはみぞれも止んでいたのだが、霧のため眺望はゼロだった。9時ジャスト、至仏山頂に到着。相変わらず霧のため眺望は無し。不思議と山頂には雪が無い。9時30分予定通り山の鼻に向けて下山開始をするが、踏跡も視界も無く次第に傾斜がきつくなり不安になるが、灰谷さんのGPSを頼りに降りていくといきなり夏道の木道や、蛇紋岩の岩稜地帯が現れたが、少し進むとまた一面雪景色になった。山頂といい、この一帯といい、地熱の為なのか不思議な現象である。雪の硬さが丁度良く、寺田さんと灰谷さんは尻セードで、他のメンバーは小走りに下りていく。10時45分に山の鼻到。小屋のビールの看板には心惹かれるが帰りの運転もあり、ここは皆で我慢をし12時ちょうどに鳩待峠に帰ってきた。

道の駅白沢に向かう途中、片品温泉の立ち寄り湯で汗を流し、今宵の晚餐の買出しをして道の駅に到着。白沢 六角堂（灰谷さんが東屋に命名）は火を使用してもOKの貼紙があったので、貸切状態で反省会が延々に続いた。夕方より降出した雨は止む様子も無く、翌朝も雨だったので、子持山は次回の楽しみにし帰宅の途についた。

